

三一五九 (P1170192～1170196)

(宛名)

佐賀県唐津病院

檜崎金之助殿

(差出)

出征六師団

歩兵四十八聯隊第一中隊

上等兵

小林徳一

(本文)

拝啓 陳は時下今夕厳

寒之候ニ御座候 御貴君

如何御消光被遊候や

其後御無音ニ打過平ニ

御海容成被下度 貴兄

最早御全快ノ御事ト深

く思ヒ居候一寸御尋

申上候 降而迂生事目下

沙河付近ニ有シ 敵ヲサル事

三百米突ニシテ一時モ小銃声

ノ堪ヘル間モナク戦斗ニ従事

ス 目下寒気は与程春ニ至リ

夜は0度以下十三四度ニシテ

昼0度以下六七度ニシテ

戦務上ニ付テは与程ヨク

相成 今日迄一寸モ結ビタル雪氷

は一寸モトケル事ナシ 我等は

散兵壕内ニ有シ戦斗ニ従事

ス 思ウニ戦斗は尚遼

遠ナリ故ニ君ト二同ト面談

致事六ヶ敷 軍人は一同

死ストノ覚固前 目下は前

進ナシ故ニ別ニ申上ル事ナシ

君モ時々御書面

被下度願上マス

武士の

屍の上ニ照る月の

知りてや人の月を

見るらん

二月十七日 小林徳一

檜崎君

三一六〇 (P1170197~1170201)

(宛名)

佐賀県東松浦郡北波多村

字徳須恵

檜崎金之助殿

(差出)

出征第六師団歩兵四十八

聯隊第一中隊上等兵

小林徳市

(本文)

拝呈 陳ば貴君ノ度々の書面差上候

へドモ一同ノ返事モ無之大ニ残念ノ至ニ思ヒ

居候処 十一月廿九日井手光太郎殿及ビ

私間の書面ノ趣キ拝見仕候 貴君は

一同出征ニ相成リ病氣ノ為ヲ以テ

郷帰被成候由 貴君モ大ニ残念ニ思

居ラレルノ由ヲ承リ 拙者モ其事ヲ見ルヤ

病氣ナレバ如何トモ致仕方無之

君の残念は最モノ仕代 君の

誠心は私モ承知致居故へ君モ

病氣ニテアマリ残念ノト思ヒ居テハ

益々病氣モ重キ方故へ 何ニ一同

病氣ニテ帰郷致候へテモ又全快致シ

シテ一同出征ヲ樂ミ一日モモ早ク御用生

致シテ本ノ徴兵検査ニテ合格致タ

身トナリテ御出征致サンヲ御樂ミ

被下度 又君ノ病氣仕代不名

届名不名故へ君モ書面ガ御

カク事ガデキルナラ一寸御通知被下

度待居候 十一月廿一日當口ニ罷出テ

同月廿九日中隊ニ帰營仕候 當口ニテ

君ニ一本書面ヲ出シ置キ候 目下

寒氣甚敷一日モ氷又雪ガトク

ル事ナシ 又水ノ有ル地ニハ氷ガハリテ

馬車砲車モ氷ノ上ヲ行進ガ

デキル 目下奉天方向テ有リ

奉天占領モマダノ私モ

戦友殿

小林上等兵

三一六一 (P1170202~1170205)

(宛名)

佐賀県東松浦郡唐津

病院第七室

檜崎金之助殿

(差出)

出征第六師団歩兵四十八聯隊

一中隊上等兵

小林徳市

(本文)

貴君御書面十二月十三日午後八時ニ拝見仕候

出征以来一同貴君ノ書面ヲ見ルニ実ニ書面

ニ書ク事ガ六ヶ敷グライニ嬉敷アリマシタ 中ヲ身

ルニ又君モ唐津病院ニ入院致サレ候由承リ

実ニ残念ノ事ニ思ヒマシタ 之モ病院ナラ

致仕方無之候故ヘ一日モ早ク御退院成

被シ事ト祈居候 目下敵は一曾(一)勇勢ニ

行動スル者ノ如シ 敵ヲサル事は目下約三四

百米突ニシテ両軍同畑地ニ防御工事ヲナシ

其中ヨリ大戦及ビ住居仕候 目下内地ニナキ寒

甚敷 目下夜及朝〇度廿二三四度下リテ寒ニ

寒ク夜毛布ヲ着シテ寝ム時モ有リ 其時

は口ノイキガ皆氷トナリ 只今寒キハ中間ニテ

何ニ寒キ共モ日本軍人は一步モ後ニ退却

スル事ハナシ 目下奉天方向約三四里ノ処ニ有リテ

攻撃は一吋中止致居マス 我ガ一命は満州ノ野

死ストノ身上故ヘ敵と何方有リトモオソルル事ナシ

寒ニハ実ニ住口致居候 尚君ノ病名

不名 君ノ全快ヲ祈ル

十二月十四日午前八時発

戦友檜崎君 小林上等兵

三一六二 (P1170206~1170211)

(宛名)

佐賀県東松浦郡唐津

病院

嵯崎金之助君

(差出)

出征第六師団歩四八

聯隊第一中隊

歩兵上等兵

小林徳一

(本文)

拝啓 陳は時下嚴冬之候ニ御

座候 貴君度々ノ吉報益々

快方ニ趣キ候由何ヨリ以テ嬉ビ居

候 一日モ早御退院被成事

ヲ望ム 降而迂生事

目下沙河付近ニ有シ相変ず

防御工事ノ中ニ住居シテ

戦斗ニ従事ス 我軍ニテモ

一里後方迄モ行通路

ヲ作り馬砲車ニテモ通行

スル事ヲ意ス 敵ヨリ発見

サルル事ナシ 工事前面ニハ福防
御ヲ作り敵ノ来襲ニハ堅固

ナリ 露助は我が軍ノ内一步モ

進入スル事六ヶ敷 又夜ニ至レバ

本隊ノ前方ニ小哨ヲ発見ス 其又

前方ニ下土哨ヲ発見ス 其下土哨

ニハ拙者共モ□口出デタ事有リ

実ニ敵ノ下土哨ト約五十米突ニテ

上等兵ガ歩哨ノ交隊及ビユヅクノ

ニ至ル至デ発見スル事ガテキル

此内大隊長は露助ト色々ト

話シタソウダ 君ニ今ノ模様

ヲ見セタイ 目下食事は男子ノ

集合故食事は一日ニ二回食タリ

三回食ウタリ又四回食ウタル

事モ有リ 富食物モ内地ヨリ

色々ト御送りニ相成ル故ヘ

ドンナ物デモ食ヒマス 営内ニ

住居シトルヨリ御知□テアリマス 又

三四日モ食ワヌ事モ有レド是は

戦斗故ヘ 戦斗ハ尚遼遠成リ

故ニ第一ノ戦友君ト二回面

話致事ハ是又遼遠成リ思へ

ば泪力出^レデル 軍人^{（度）}は一同戦死

スルトノ身上故へ是又覚^{（度）}伍ノ

身ノ上又申マス

春ハウレシヤ。奉天行撃。

沙河ノ戦斗。敵トミカタト。

川ヒトへ。オイ露助。コウサンセンカ

トユウテ。奉天占領スル。チイト。愉

快。ジアナイカイノ。

満州名物。チイト。イチ／＼申スナラ。

夜は。トコムシ。ヒルハ。ハイ。メシ／＼。

進上デ。パウ／＼ラ。カイスイ。ナウライ。

ポカポンナ。一月廿日

檣崎君

小林

三一六三 (P1170202~1170214)

(宛名)

北波多村字徳末

檜崎金之助君

(差出)

歩兵四十八聯隊一中隊

小林徳市

七月四日

(本文)

拝呈 陳は時下薄暑之候ニ御

座候 御貴殿様益々御勇

健奉賀候 降而迂生日々

軍務勉強仕候間乍憚御休

心被下度申 月日之立ツノモ

早キ者デアリマス 最早入營致マシテ

半年クラシマシタ 軍入ニ仕レバ子共ト

同ジ事デアリマス 菓子又ハうどん

ぱんを食ヒ甚ダ子共ト同

事デアリマス 我身ながら

モ日々オカしくアリマス。

先ハ時候御見舞申上候也

二伸 北内ニ軍人之精心勅語五

ヶ条御定申上置キ候処何□

律合ニ御座候や一寸御尋

申上候 貴殿モ主年会役

員之一人なれば会員並ニ役員

上律合う御キカセ被下度

候也

檜崎兄上君

(宛名)

東松浦郡北波多村字徳須恵

檜崎金之助君

(差出)

久留米歩兵四十八聯隊第一中隊

小林徳一

(本文)

拝呈 陳ば時下春暖之候ニ御座候 貴君

益々御壯健之由大賀奉候 随而迂生

無事軍務勉強仕候間乍憚御

休心被下度 尚又過日御書面

被下難有拝見仕候 早速書

面差候処延引仕候 尚

北波多徳末主年会益々盛大

之事ニ御座候 大敬之事

ニ御座候 小生ニ参年後益々

主年会最大成ル事才□□

先ハ書面以テ御礼申上候也

主年会一同様ニモ貴君ヨリヨロシク御伝言

被下度候

檜崎君

小林

行軍之記

去ル貳月拾八日午前八時半頃武装ニテ舎前ニ整列シ北通用
門ヲ出發して草野町ニ向テ行軍セリ 然ルニ此ノ日ハ
恰モ一天暗黒トナリ寒氣凜冽猛々タル雪ヲ降ラス 此ノ
期ニ際シ我軍ハ大ニ勇氣ヲ奮フテ進軍シ 始メハ旅次行
軍ニテ御井町上追分ヲ過キテ放光寺ニ至リ小休憩シ
約拾分門ノ后又銃線ニ整列シ其レヨリ戦鬭行軍
ニ移リ 予考ハ敵ト御井町付近ニテ戦ヒタル敵兵尚ホ
草野ニ向テ通スル道路ニ依リ退却中我軍ハ是ヲ
追撃シテ前進セリ 而シテ我等ハ前兵トナリ其内又
此兵トナリ 其レヨリ我等数名ヲ選拔サレテ斥候トナル
其内僕ハ第壱斥候長ヲ命セラレ部下貳名ヲ師ヒ
共ニ草野ニ直通セル道路ヲ搜索シツゝ前進ナシ
柳坂ノ堤防ニ至レバ敵ノ歩兵壱個小隊ノ散会スル
ヲ発見セリ 故ニ我等三名ノ斥候ハ直ニ身ヲ潜メテ地物
ニ依リ其ノ一名ヲシテ尖兵長殿ニ報告セシメ 后貳名ハ
敵ヲ看守セシ所敵ハ其場ヲ退却セリ 故ニ二名ハ
尚之ヲ追撃シテ千光寺に至レバ学校ノ后方ニ亦モヤ
敵ノ壱個小隊散会セリ 之ヲ発見スルヤ直ニ身ヲ
居シテ其動靜ヲ窺ヒ其一名ヲシテ尖兵長殿ニ報告
セリ 其レヨリ暫時ニシテ敵ハ又亦草野ニ向テ退却ナシ
我軍ハ尚々之ニ向テ追撃セリ 其途中吉木村ノ西端
ニテ前報告ニ遣シタル他ノ兵ト連絡シテ益々前進スレバ
敵ハ將又吉木村ノ東端若宮八幡宮社ノ所ニ散会

セリ 我等ハ之ヲ發見シテ迅速急ニ身ヲ居シ 他ノ斥候ト共ニ后方ナル尖兵ノ所ニ至リテ直ニ尖兵長殿ニ報告セリ 故ニ尖兵殿ハ直ニ其ノ敵狀ヲ見テ前兵尖兵ヲ供同ナシ吉木村東端ニ散会シ敵ニ向テ戰鬪開

始攻撃ナシテ大ニ勝利ヲ得テ 演習止メノ命令ニテ会散式列從隊ニテ草野ニ通スル道路ニ出デ 其北側ナル田中に又銃休憩シテ教官殿ノ令ニテ其ノ場ニ円形ニ集リ教官殿ノ好評ヲ拝聴シ終リテ道路上ニ

整列シ四列從隊ニテ草野ニ向テゾ行軍セリ 此ノ際早ヤ太陽ハ南方ニ拝シテ時ハ午前拾壹時ヤ、過ギナリケリ 此レヨリ旅次行軍ニテ草野町ニ着シ酒屋ニテ約一時間ノ大休憩ナシ昼食ス 又大ニ勞ヲ慰メタリ其レヨリ午后一時頃ヨリ草野ヲ出發シ下リテ善導寺ニ向テ出發行軍ナシ常持村ヲ過キテ勿体寫ニ

至リ此ノ地ニ小休憩シ 其レヨリ又亦タ戰備行軍ニ移リ

又我等ハ午前ノ如ク斥候ヲ命セラレテ前進搜索セリ而シテ勿体寫ノ堤防ニ至レバ敵ノ壺個小隊ノ散会スルアリ之ニ攻撃スルコト午前ノ動作ノ如シ 而シテ暫時ノ

后又敵ハ退却シテ飯田ヲ過キ与田ヲ過キテ木塚ノ

堤防ニテ敵軍ト攻撃シ 尚ホ前進シテ木塚ヲ過キテ

津以川ヲ過キテ其西端ニ至レバ敵ハ退却ノ方向ヲ變

更シテ追分ニ通ズル路_レ道ノ南側ナル雜木林ノ中ニ潜伏

セリ 故ニ我軍ハ之ニ向テ攻撃ナシ 尚ホ近ツクニ從ツテ

皆散会ナシテ突撃シ大ニ敵軍ヲ撃破シテ

大勝利ヲ得タリ 其レヨリ兩軍和睦シ演習止メニテ

林中ニ入銃休憩シ火ヲ燃シテ大ニ其勞寒ヲ慰メタリ 又教官殿ノ好評アリ 其所ニ暫時ノ休憩ニテ本道ニ出デ軍歌ヲ謡テ国分ナル兵營差シテゾ帰營セリ 此ノ時最早太陽ハ西山ニ没シテ午后六時稍ヤ過ギナリケリ 終

三一六五 (P1170222~1170224)

(宛名)

東松浦郡北波多村字徳須恵

檜崎金之助君

(差出)

歩兵四十八聯隊第一中隊

小林徳一

(本文)

拝呈 陳は甚暑之候ニ御座候 御貴

殿様益々御壮健之由奉賀候

降而迂生無事ニテ軍務勉強

仕候間乍憚御休心被下度 此間書

面被下難有拝見仕候 今日迄モ返

事モ出さず平ニ御断申上候 先日

軍人之精心勅諭之五ヶ条マキモノトシテ

徳末主年会ニ御送申置候 堤

会長殿ニ御送候 何タル事モ是ナク

着シ候ヤ一寸御尋申上候 其勅諭五ヶ条

軍人精心成 軍人ハ此勅諭ヲ一日モハスレ

テハイケマセヌ 主年会事務所ニカケテ被下

度ト思イ居候処 御貴殿モ主年会

役員之一人ニシテ甚御心配ニ候ヘ共一寸

御尋被下度 先ハ書面ヲ以テ御報知
申上候也

本月十日ヨリ八月三十日迄ハ午前ギリ練兵
午後ハヤスミデアリマス 午後六時ヨリ午後八時迄
練兵場散歩致ス事ニ御座候也

三一六六 (P1170225～1170227)

(宛名)

東松浦郡北波多村字徳末

檜崎金之助君

(差出)

久留米歩兵四十八聯隊第一中隊

小林徳一

(本文)

拝呈 陳ば時下寒氣の節ニ御座候
貴君益々御壯健の由大賀奉候 降
而小生無事軍務勉強仕候間
乍憚御休心被下度 たび／＼
御書面被下有難方々御礼

申上候 私通^(郵)合ヨリ軍隊之

仕口物ニ仕が^ル仕候をもつ

居候 其良ニ仕が^ル仕候べば

貴君ニハ早速書面上差候也

寒中御身御用心

檜崎金之助君

小林徳一

三一六七 (P1170228～1170232)

(宛名)

東松浦郡北波多村

字徳須恵

榑崎金之助君

(差出)

久留米歩兵四十八聯隊

第一中隊

小林徳一

(本文)

拝啓 陳ば時下寒氣

之節に御座候 貴君御壯

健之由大賀奉候 降而

迂生無事ニテ軍務勉

強仕候間乍憚御休心

被下度 御書面たび／＼

送被下難有方々御礼

申上候 君□手紙被下

候へば面会シタコト御座

リマス 此内字田中榑崎

一寸貴宅仕君ニ御礼被下

申□上候 又写真迄モ

御送被下難有御礼申

上候 君心節之人と申して

休養半ノ兵が□□

ゆてくれマス 一方国第

□□でも君□心節

の物はない 書面以御

礼申上候 手紙一本

かくのニ五度ニ書キ

マス 是モ国家の

タメ

榑崎君

小林

三一六八 (P1170233~1170240)

(宛名)

佐賀県東松浦郡唐津

病院

嵯崎金之助君

(差出)

出征第六師団歩四八

一中隊上等兵

小林徳市

(本文)

謹賀新年

拝啓 陳ば時下寒気甚敷

相成候 貴君書面本月七日

着有難拝見仕候 目下沙

河付近ニ堅固ナル防御工事

ヲナシ敵ト見方ト川ヒトヘ 実ニ

露助方話ス声モヨクハカル 又

此一月一日午前十一時ニ旅順ノ

ステエル將軍ガ白旗ヲ上ゲタル通

報至リ 其愉快本ヨリ元日故ヘ

一人前モチ一個 モチ米五合 酒二合

四人ニ付鳥一個 サカナ一人ニ付四十目

御支給ニ相成候故ヘ 專

十一時節迄は酒ヲノンデ居リ

マシタ 皆戦斗線ニ出デ／＼

露助最早旅順モオチタド早ク

沙河デモ白旗ヲ上ゲロ 我ガ軍万

歳ヲ上ゲ其声は天地ニヒビキ

露助モタマカリ 日本軍ハ夜

撃トカト露助モ又射撃ドモ

ヤリダシタ 此二三日前ニ○イカタコ○ヲ

作り其レニ旅順ハ落シタド

トカキテ露助ノ防御工事ノ

上マデトドクヤ直ニツナフキリテ

ヤリタ 其レヲ露兵ガ二三入直ク

ヒロイ取り一時間バカリ風ニフカ

セテ居リタ 戦斗トガ

実ニコンナ接近ガアル者ガ

君モ一日モ早ク御養生

致シ御退院被成事ヲ望

ム

先日ノ書面ニテハ最早全快

ノ模様ニ相成候由ヲ承リ

候 此度ビノ書面病氣ノ事

不名故ニ大ニ心配致居

候 迂生ノ一命は最早一同

死ストノ身ノ上故ヘ 貴君ハ

故ニ一日モ早く全快

退院通報マツノミ

戦斗ニ取リマギレ一寸申シマズ

余は後便ヲ以テ通報

戦友君 小林ダ

ヘル ウレシ
春ハ嬉シヤ。蓋平行撃。大石橋

ノ占領。数多負傷者ヲシウヨスル。

ドンピウー。グンイドノ。又ヤラレマシタ。ホウ。

ソウカ。ツクス心ガ。セキジウジ。

チイト。ナサケノ。フカミドリ

アキハ。ウレシヤ。遼用行撃。

首山堡ノ占領。敵モ。サイゴトアシ

トドメ。敵モサイゴトアシドドメ。

大隊前進ツウコメ。トウカン。

ハア。数多堅堡。ノリトリ

テ・チイト。遼陽ヲ占領スル

チイト。愉快ジアナイカイナ

後は宜敷御作り被下

度

三一六九 (P1170241～1170250)

(宛名)

佐賀県東松浦郡唐津病院

第七室

嵯崎金之助殿

(差出)

出征六師団歩四八聯

隊第一中隊上等兵

小林徳一

十二月廿二日発

(本文)

拝呈 陳は時下愈寒気

甚敷相成候処 貴君

御書面十二月十日十二月廿一日二本着

何ヨリモ有難拝見仕候

貴君モ此度ビノ書面ニテハ

全快ノ模様ニ相向テ候

由承大ニ嬉敷御座候 貴

君ノ度々御書面被下

其レノミ待子居候 且又迂生モ

愈々君ノ在地格実故へ

時々書面ヲ差上候 降而

迂生蓋平城占領

始メ 其レヨリ大石橋 営口 海

城 安山点 首山堡 遼

陽数開^④ノ大戦及ビヤ戦

ニ参加シテ戦斗ニ従事

シテ今日迄敵弾一発オ

命中センハ実ニ何ヨリモ

有難思ヒ居候 十月四日以

来我ガ聯隊ノ一大隊は先

進部隊ニ任ゼラレ 其レヨリ

今日ニ至ル間モ入家ニ住居

シタ事ナシ 且又眼ニ見ヘルハ

露助砲壘 耳ニ聞は

砲声馬砲声一時モ銃

声ノ堪ヘル事ナシ 目下大

隊は奉天方向約四五里

第一戦部隊トシテ敵ヲサル

事約三百米突ニシテ

両軍共モニ畑地ニ防御工

事ヲナシ其中ニテ大戦及

ビ住居ス 我ガ軍ニテモ

大一戦ヨリ後方約一里

グライハ畑地ヲ工事シテ

砲車及人ガ通行スルモ
敵兵ニハ一寸モ見ヘズ敵モ
又同シ 目下敵は遼陽
迄チリモ戦ヒ勇勢ニ行
動スル者ノ如シ 私モ出
征以來十一月七日迄吉丸
大尉殿ノ從卒ニ任ゼラレ
十一月七日付キヲ以テ上等
兵ニ進ミ第二分隊付ヲ
命ゼラレ 目下上坂ノ
任務ニテ斥候ニテモ
其長トシテ兵卒ヲ引ヒ
テ敵ヲ見ル事ニテ
其仕甚ダ重シ 又愉快
ナル事アリ 我等ガ内地ニ
兵營ニ住居スル事は
斥候及ビ先頭部隊は
騎兵ノ任務ノ如ノ教ヘラレ
居リ候ヘドモ 目下ノ文名ノ
戦斗ニテハ騎兵ノダメ
何故ト君ガ申スナラ騎兵
ハ実ニ身体ガ馬共ニ
大ナリ故ニ 敵ヨリ歩兵
ヨリモ早ク発見サレテ
敵ガ射撃スルト騎兵は

直ニ退却スル 此度ビノ
戦斗ニテハ騎兵は実ニ
ヘウバンノハルイ 是ハ君
ノ心ニ思ヒ被下度 騎兵
は後方ニバカリ居ル故ヘ
騎兵ノ死場ナシ 目下寒
氣甚敷〇度ヲ下ル廿
四五六度シテ氷ノ厚サ約
二尺 其上ヲ馬車砲車モ
行軍スル事ガテキル 雲は
何時ニテモ一面白布ノ如シ
夜ニ至レバ毛布ヲ着シテ
寝ム事アリ 其ノ時は口ノ
イキガ氷トナリ其ノ毛布ガ
頭ノ斗は霜ヲ結ビ実ニ
之ニハ迂生モ驚キマシタ
軍人は一同死スルトハ身ノ上故ヘ
何ニ寒キ敵は何万
有リトテモ一歩モ後ニ
退却スル事ナシ 書
面ニテモ筆ニテ書ク事
デキズ 余は後便ニテ
御通報アリタシ
返事マツ
戦友君 小林

三一七〇 (P1170251~1170257)

(宛名)

佐賀県東松浦軍北波多村
字徳須恵

檜崎金之助殿

(差出)

久留米歩兵第四十八聯隊
第一中隊

小林徳市

(本文)

拝啓 陳ば其後御無音ニ打
過多罪至ニ御座候 御貴殿
益々御清福奉賀候 私事
入営以來頗連動行届今日
至り康健ニ御座候間乍憚

御於^茲念被下度 昨年入営セシ

新兵諸君モ本月廿五日ヨリ
師団長閣下第壺期閲ヲ地
行ニ相成 此一期後ハ新兵モ
戦ヒ出軍アレバ從軍致事ニ相
成候 我等軍人共ハ明日ヤ今日ヤ

ト動員待居レド今日迄デ何

タル事モナク 地方は如何ナル御話
之有候ヤ一寸御尋申上候

尚御承知ニモ候ヘ共モ 本年二

月十日天皇陛下各師団長閣

下御集軍人一同ニ勅語ヲ賜フ

日露開戦勅語

朕ハ東洋ヲ以テ朕ガ哀心欣幸

トスル所ナルガ故ニ清韓両国関スル

時局問題ニ付 朕ガ政府ヲシテ

昨年来露国ト交渉セシメタリ

然ルニ露国政府ハ東洋平和ニ顧

念スルノ誠意ナキ事才確認セリシタル

止ムウ得ザルニ達シタリ 盖シ清韓

両国領土保全ハ我ガ独立自

衛ト密接関係有ス 茲ニ於テ

朕ハ朕ガ政府ニ命ジテ露国ト

交渉ヲ断チ我ガ独立自衛

為メ自由行動執ラシムル事ヲ

決定セリ

朕ハ郷等ノ忠誠勇武ニ信賴シ

其目的ヲ達シ以テ帝国之光

榮ヲ全タセシムルコトヲ期ス

明治参拾七年二月十日

師団長閣下奉答

謹シンデ奉ズ 臣春野
陛下ハ優渥ナル勅語ヲ賜フ 臣等
感激ノ至ニ堪ヘズ誓テ誓旨ヲ奉
体シ皇威ヲ發揚センコトオ期ス 臣春野
部下ヲ代表シ誠恐誠惶謹シ
ン
デ奉答ス

実ニ軍人トナリ有難キ事ナリ

陛下ヨリ勅^(詔)伍賜ハク 尚日本神社

御寄軍人ニ御渡シニ相成 実ニ

如ナル戦ヒアルドモ死スル事ハナシ

貴殿モ私ト同年兵出軍致シ

候ヘバ戦ヒニ望ミ服務致候ヘ

バ苦樂生死ヲ共ニ致シ候ヘ共モ

残念ナガラ貴殿ハ服務致サレ

ントハ残念ナリ 尚話タキ

事山々 新兵一期後ハ隊

長殿ニ御願ヒ一寸帰營致

事ニ思ヒ居候 先ハ時下御見

舞迄デ 早々啓白

榎崎君 小林徳市